

東京農工大学農学分野における 農学教育、環境教育プロジェクトの取り組みと評価の視点

平田 豊

東京農工大学大学院農学研究科国際環境農学

筆者らは以下のような農業・農学教育の支援やそれに関するいくつかの国際協力のプロジェクトに参画してきた。しかし、この分野の成果を効果的にあげ、日本の国際的位置を真に高めていくことは容易なことではない。こうした国際協力における人材養成の事業の成果は定量的なアウトプットが表面には見えにくく、また本来短期間には評価しがたい属性などがあり、評価が最も困難な分野の一つである。しかし、人の質が協力の出発であり、帰結でもあり、従って、最も重要である。それだけに、プロジェクトの適切な方針、リーダーや人的配置、評価や運営の柔軟性など総合的力が求められるのである。今回はベトナムカントー大学農学部における農業・農学教育支援について現状や問題点などを中心に他の経験や教訓にも学びつつ、問題提起したい。人材養成といっても、対象や目的は多種多様である。これに対する評価も多種多様でなければならないが、しかしそこには自ずから、大学の教育研究や農学・農業分野の特性からくる基本的内容がふまえられていなければならない。それらの視点をいくつか述べてみる。

特徴と問題点

- ・大学においては教育と研究が分かれ難く結びついている。研究を通じた教員、スタッフの力量アップ、教育能力の向上、養成の視点が最も重要である。
- ・協力が成果を生むまでには時間を要する。目標は明確でなければならないが、持続こそ力である視点が不可欠。
- ・技術や自然科学教育分野では特に実験的、実践的陶冶が重要。
- ・施設や設備の導入、技術移転は適応的な小中規模のものから。
- ・人の持続的つながりが生命線。
- ・現地の専門家と日本側スタッフの連携。
- ・人材養成レベルは修士学位から博士学位取得レベルへと急速に向上している。
- ・日本の現役教官の条件整備

農学、農業課題との関連

- ・農学・農業と環境との絶えざる追求
- ・農学の総合性の理解
- ・現地主義
- ・日本農学・農業再生の道の追求

参考資料

我々の関与した農学教育、農業関連プロジェクト

- 1) 農工大学における国際教育協力プロジェクト
- 2) 農科大学獣医学教育支援（ザンビア）
- 3) 農学教育の充実（ベトナムカントー大学農学部）
- 4) 農学における環境教育の充実
- 5) 大学の学部が関与する農村開発（ガーナ大学農学部）
- 6) 農学教育カリキュラム調査（カンボディア）
- 7) 自然環境保全プロジェクト（中国内モンゴル、フールベル学院）
- 8) 中国における人口問題に関する協力（中国）
- 9) 赴日留学生予備教育（中国長春）その他